

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-8527
 住 所 川崎市川崎区駅前本町3番地1
 氏 名 川崎アゼリア株式会社 印
 代表取締役社長 向坂 光浩
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	川崎アゼリア株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区駅前本町26番地2		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	K	不動産業, 物品賃貸業
	中分類	69	不動産賃貸業・管理業
主たる事業 の内容	主として店舗の賃貸管理及び広告業、物品販売等の事業並びに地下駐車場・公共地下歩道の管理運営等の事業を行っている。		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		4,190 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ~ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

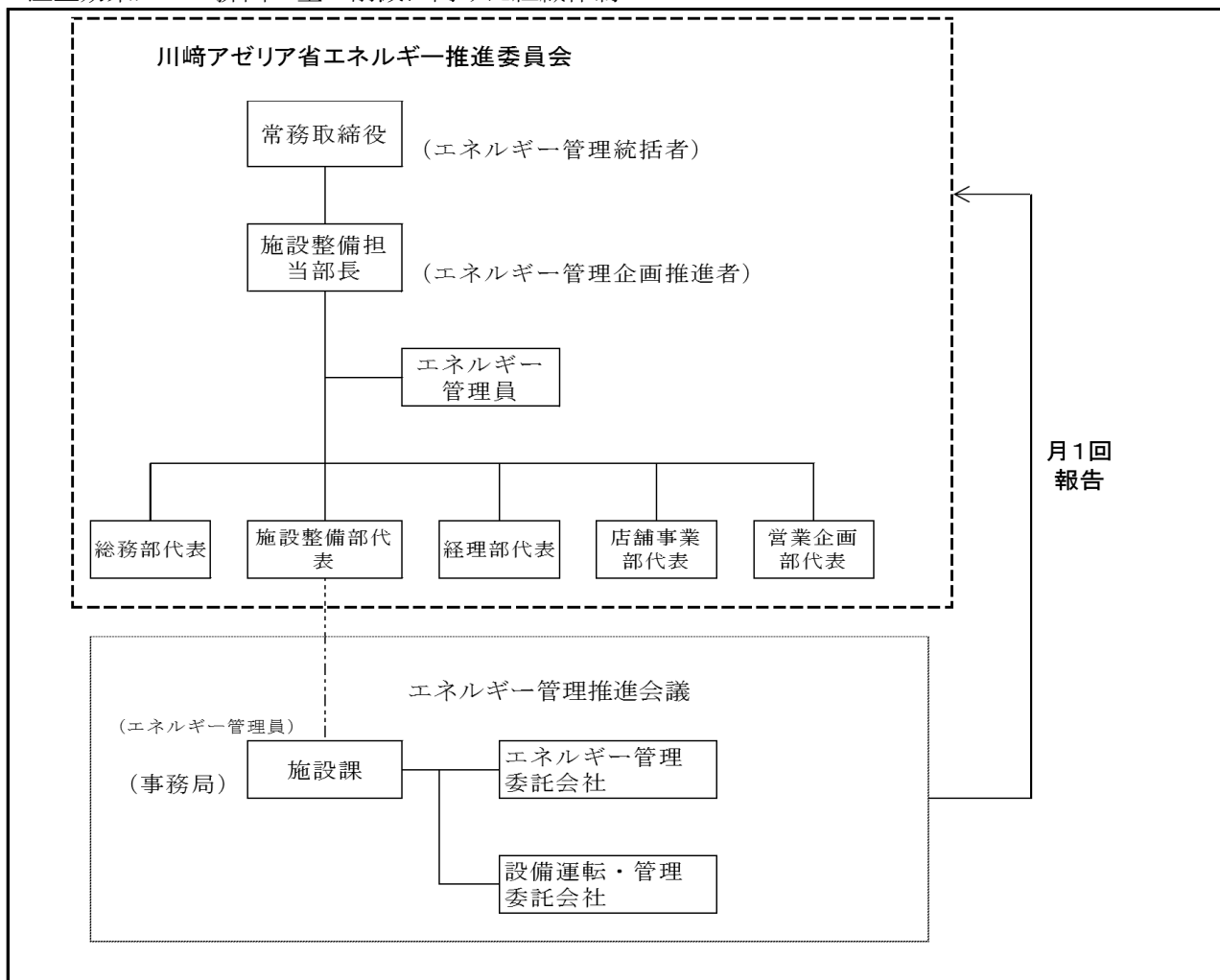
1. アゼリア基本方針

- (1) 川崎市の「事業活動地球温暖化対策指針」に基づき、社内全体での推進体制を整備する。
- (2) 温室効果ガスの排出削減対策を推進するための対策責任者の設置を行うとともに役割分担を明確にする。
- (3) 毎年の温室効果ガスの排出の量を把握し、整理・分析を行いその結果を社内に情報共有する体制を整備する。
- (4) 熱源機器及び空調機等の主要な設備をはじめとして、温室効果ガス排出量抑制を図るため、定期的に管理基準を見直し削減に向けた改善を行う。
- (5) エネルギー使用量、燃料使用量等、温室効果ガスの排出の量と密接に関係をもつ数量の使用量及びその負荷変動を管理し、過去の実績との比較及び分析を行う。
- (6) エネルギー使用量又は温室効果ガスの排出量の管理指標として、エネルギー消費原単位又は温室効果ガスの排出量原単位を算出し、管理する。
- (7) 空調調和を構成する熱源設備、熱搬送設備、空調調和機設備の管理は、外気条件の季節変動等に応じ、冷却水温度や冷温水温度、圧力等の設定により、空調調和設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行う。
- (8) アゼリアの熱源設備については、使用するエネルギーの種類異なる複数の熱源機で構成されているので、外気条件の季節変動や負荷変動等に応じ、稼働台数の調整又は可動機器の選択により熱源設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行う。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

- ① CO2排出量削減計画に基づき、省エネ及び排出量削減の目標設定を行い、年度計画を策定する。
具体的な実施項目と予算化する必要のあるものを毎月開催しているエネルギー報告会にて確認・共有する。
- ② 報告会にてエネルギー使用量及びCO2排出量の実績管理を行い、予算管理も含めた運用方法及び設備保全等の事項を整理し年度計画の見直しを行う。
- ③ 省エネルギー委員会にて省エネ及び排出量削減効果の検証、評価を行う。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基準年度		2021				年度
目標年度		2024				年度
基準排出量	（実）	7,521		（実）		
	（調）	7,465 t-CO ₂		（調）	t-CO ₂	
目標排出量	（実）	7,295		（実）		
	（調）	t-CO ₂		（調）	t-CO ₂	
削減量		（実）	226 t-CO ₂	（実）	t-CO ₂	
内訳	対策実施による削減量	（実）	226 t-CO ₂	（実）	t-CO ₂	
	上記以外の削減量	（実）	0 t-CO ₂	（実）	t-CO ₂	
削減率		（実）	3.0 %	（実）	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量		面積			
原単位の単位		t-CO ₂ /m ²			
基準年度の値		0.1322			
目標年度の値		0.1282			
削減率		3.0 %		%	

ウ 目標設定に関する説明

- ・エネルギー消費の増加をいかに抑制し、更なる温室効果ガスの削減を図る。基本対策及び目標対策を定め、エネルギー効率向上とロスの排除及びアゼリア全体でのエネルギー管理を強化し2023年度までにCO₂排出量並びに原単位の3%削減を目指す。
- (1) エネルギー使用量の見える化による計画的な運用方法の検討
- (2) 老朽化した各ファンのINV更新を行いエネルギーロスの排除
- (3) 冷却水ポンプのINV化による省エネ化
- (4) エアカーテン増設により外気を遮断し、冷暖房効率を上昇を図る
- (5) 照明のLED化による省エネ化

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

計 画	1. アゼリア基本対策 (1) 川崎市の「事業活動地球温暖化対策指針」に基づき、社内全体での推進体制を整備する。 (2) 温室効果ガスの排出削減対策を推進するための対策責任者の設置を行うとともに役割分担を明確にする。 2. 目標対策 (1) 冷却水ポンプのインバータ化 (2) エアカーテンの増設 (3) 照明のLED化 (広場照明をエバーライト→LED化) (4) 機能保全を目的とした機器更新 (空調用ファン高効率機器更新)
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	/

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<ul style="list-style-type: none"> ○環境省の「平成17年度環境と経済の好循環のまちモデル事業」となる水和物スラリ蓄熱空調システムの導入 (2007年度実施) ○低CO2川崎パイロットブランドに選定された、水和物スラリ空調システム「ネオホワイト」を用いた高効率熱源機 (COP-1.3以上) の導入 (2007年度) ○空調機及び換気ファンに対するインバータ制御の導入 (2008年度) ○施設全体の管理を徹底するために、中央監視システムに「BEMS」を導入 (2008年度) ○地下街の出入口 (5箇所) にエアカーテンを導入し、冷温熱源の街外への流出を防止 (2007年度) ○吸収式冷温水発生機 (3台) 及びスクルーチラー (5台) の分解整備を実施 (2015年度) ○高効率変圧器への更新 (2017年度) ○機能保全の為、駐車場送排風機ファン用インバータ (8台/22台) 更新 (2018年度) ○機能保全の為、駐車場送排風機ファン用インバータ (7台/22台) 更新 (2019年度) ○機能保全の為、駐車場送排風機ファン用インバータ (6台/22台) 更新 (2020年度)
--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	当該設備は地下施設の為、再生可能エネルギー設備を設置することが出来ない。
風力	○	同上
バイオマス	○	同上
未利用エネルギー	○	同上
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	○	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	○
電気自動車等から建物等への給電設備		その他 ()	
EV、PHV、FCV		その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	特になし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	特になし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	7,521	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

4,190	KL
-------	----

ウ 事業所の数

2

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
川崎地下街 アゼリア	川崎市川崎区駅前本町26番地2	7,508 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂